

2019年度 事業報告書

私たちが創るあだち、安心して暮らせる、支えあいのあるまち



2020年5月

社会福祉法人 足立区社会福祉協議会

目次

1	本報告書について……………	1
2	取り組みの結果……………	4
3	足立区地域福祉活動計画について ……	32
4	ささえあい活動事例集について ……	35

1 本報告書について

(1) 本報告書の位置づけ

2015年2月、住民による小地域福祉活動やボランティア活動を発展させていくため、第2次足立区地域福祉活動計画（以下「計画」）が策定されました。

足立区社会福祉協議会（以下「足立区社協」）は、この計画に基づき、住民の活動の推進・支援を行っています。

この報告書は、**計画がどのように取り組まれているか**を見える形にし、住民の皆さんに今後の活動の参考にしていただくことを目的として、2019年度の足立区社協の取り組みの結果及び住民活動の様子を報告するものです。

(2) 計画の概要

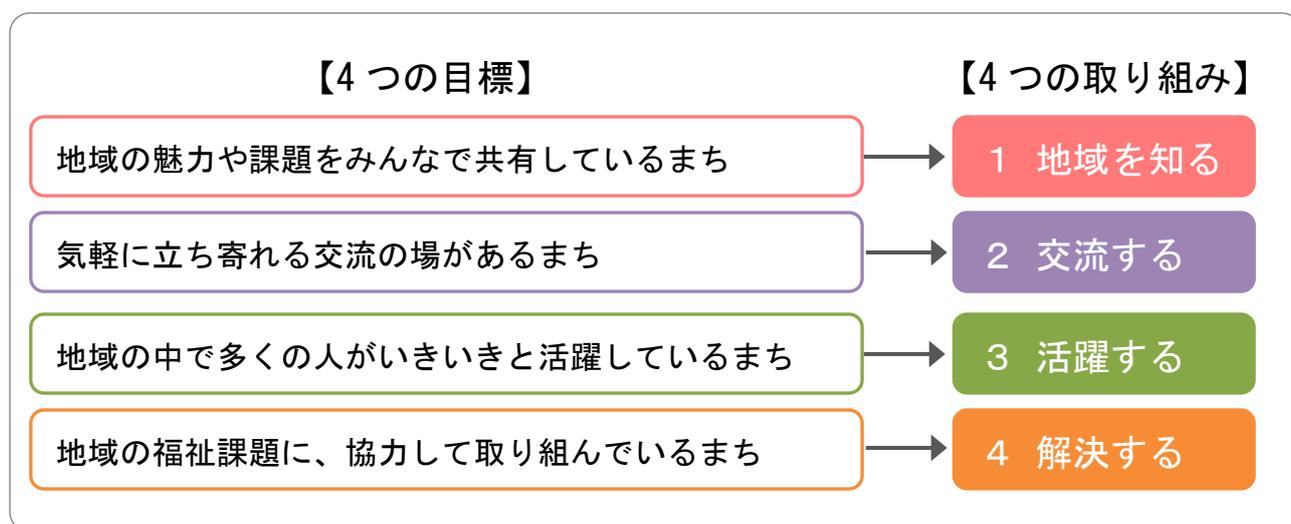
基本理念は「私たちが創るあだち、安心して暮らせる、支えあいのあるまち」です。

計画では、地域での付き合いの減少や孤立が問題となるなかで、「**踏み出そう 遊び心で、活かそう あなたの力!**」（基本方針）を合言葉に、住民の“**地域参加**”を図っていくこととしています。

【目標を実現するための4つの取り組み】

計画の大きな取り組みの柱は、「地域を知る」、「交流する」、「活躍する」、「解決する」、の4つです。

この報告書では、「2 取り組みの結果」（4ページ～15ページ）で、足立区社協の取り組みの実績を示しています。また、別冊の「ささえあい活動事例集」では、2019年度に公開した地域活動レポートを、地区ごとに分類して掲載しています。



【進め！あだちプロジェクト】

「目標を実現するための4つの取り組み」を“後押し”するため、足立区社協が住民の皆さんと一緒に取り組む「進め！あだちプロジェクト」を計画に位置付け、積極的に推進しています。

2018年度に計画後期に入り、目標達成に向けて更なる活動を推し進めるため、プロジェクトの各プログラムについて取り組む内容を「後期アクションプラン」として位置づけ、取り組みを進めてきました。

この報告書では、「2 取り組みの結果」において、後期アクションプランが開始して2年目に入った各プログラムの進捗について記載されています（16 ページ～31 ページ）。

【目標を実現するための4つの取り組み】



後押し

【進め！あだちプロジェクト 後期アクションプラン】

1 地域の情報、発信・共有

住民自身が地域のニュースやリポートを柔軟かつ楽しい形で伝え、地域の情報を共有していくような仕組みをつくりま

2 活動への参加促進

ボランティア活動などの担い手同士がつながって、活動の紹介やコーディネートをしていく仕組みをつくりま

3 小地域、みんなで連携

区の地域ケアや孤立防止の取り組みと連動して、小地域における福祉課題解決の仕組みをつくっていきま

（3）計画推進の体制と進捗状況

計画では、足立区社協に設置した地域福祉研究委員会を活動の推進・評価機関と位置づけています。

2019年度は、第3期地域福祉研究委員会によるプロジェクト3でのフォーラム開催と第2次計画の評価、次期計画策定に向けた準備作業を進めました。2020年度は、第3次計画の策定に向けて更なる体制づくりや検討を進めていきます。（33 ページ、34 ページ）

2 取り組みの結果

目標を実現するための取り組み1

地域を知る

住民の視点を活かした情報提供や、学びの機会をつくります

(1) 福祉出前講座の提供

住民自身の地域福祉の学びと活動を支援するため、足立区社協職員等を講師として計68回派遣し、出前講座を実施しました。

項目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
地域福祉入門	34回	49回	39回	43回	33回
ボランティア入門	9回	4回	2回	4回	1回
介護入門	20回	16回	12回	17回	21回
老い支度・権利擁護	28回	23回	36回	28回	12回
体験講座	2回	6回	3回	2回	1回
計	93回	98回	92回	94回	68回

福祉出前講座を活用した高齢者の健康増進

2019年12月14日（土）花畑記念庭園の中にある集会施設「桜花亭」にて開催された健康セミナーにて、社協・地域福祉課職員が講師となり“介護にならないためには今何をすべきか”というテーマのもと福祉出前講座を行いました。

この健康セミナーは桜花亭の事業のひとつで、高齢者の介護や認知症の予防を目的としています。社協は企画段階から参加し、近隣の地域包括支援センターとも連携しながら、今年度は2回のセミナーを企画、実施しました。

講座では、介護や認知症を予防するポイントとして、社会参加やコミュニケーション、栄養、運動などを紹介し、講座終了後には数名の男性から質問を受けるなど、予防や健康増進への関心が高いことがうかがえました。

「今は健康体だけれど、漠然とした不安を抱えている」「介護になって迷惑をかけたくない」といった声が聞かれる中で、こういった講座をきっかけに生活習慣を見直すなど、健康への意識を高める機会を提供しています。



(2) 社協の広報

①社協だより「ささえあい」

より多くの方々に足立区社協の活動を知ってもらい、もっと身近に感じていただけるよう、「足立社協だより」を全面リニューアルしました。「ささえあい」から「あだち社協」にタイトルを改め、サブタイトルに「地域福祉の情報紙」を加えることで、どこの、なんの広報紙かをより分かりやすくしました。また、多くの方が読んでみたくなる、手に取ってみたいくなるよう、表紙一面を写真とし、視覚的に伝わる構成で情報をお届けしました。

号数（発行部数／発行月）	テーマ/サブタイトル
第 56 号（26,000 部／7 月）	障がいのあるなしを超えて／Shall we dance？
第 57 号（26,000 部／10 月）	地域でつながる子育て／＃キラビト♡
第 58 号（26,000 部／12 月）	のぞいてみよう／お困りごと解決します。
第 59 号（27,500 部／3 月）	鹿沼社協と災害時の活動協力に関する協定を締結しました！

②Facebook（フェイスブック）

足立区社協のイベント、講座、研修、職員募集のお知らせや経営状況等の報告ほか、登録団体の活動の様子や地域での講座、イベント情報を発信しました。

項目	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
フォロワー数			175 名	264 名	321 名
投稿回数			92 回	157 回	144 回

※ 2017 年 10 月 1 日よりフェイスブックの運用を開始しました。

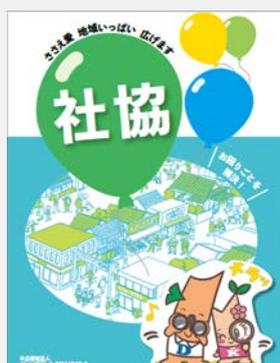
(3)「ささえあいブログ」の発信

足立区社協ホームページに設置している「ささえあいブログ」で、地域の活動の様子を伝える「地域活動レポート」を計 53 件発信しました。

項目	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
地域活動レポート数	41 件	73 件	68 件	67 件	53 件

社協広報のリニューアル

2019 年度は広報に関する基本方針の基本目標である「知ろう 広げよう つなげよう」に基づき、広報紙の全面リニューアルのほか、足立区社協の活動をより多くの方に知ってもらうため、また、身近で親しみやすい組織を目指して、足立区社協パンフレット（丸わかりブック）、足立区社協 LINE スタンプを作成しました。



◀
パン
フレ
ット

LINE スタンプ

だいきとこえだ ささえ愛 スタンプ



etc.(全 40 種)

目標を実現するための取り組み2

交流する

地域のなかに、気軽に立ち寄れる交流の場をつくります

(1) ふれあいサロンの立ち上げ・運営支援

地域で気軽に集まれる居場所づくり、仲間づくりのサロン活動を支援しました。

項目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
登録数(カ所)	80	106	130	138	151
(内訳)					
高齢者サロン	65	90	114	122	134
障がい者サロン	1	1	1	1	1
のびのび親子ひろば	14	15	15	15	16
新規登録数(カ所)	13	34	30	20	20
サロン参加者数(延べ人数)	18,747	28,024	35,100	41,056	36,654
サロン開催数(延べ回数)	975	1,543	1,898	2,323	2,072

※活動を終了するサロンがあるため、当該年度の「新規登録数」と前年度の「登録数」を足しても当該年度の「登録数」に一致しません。

新助成金を活用してサロンを活性化

2019年度は、歳末助け合い募金の配分金を財源としたふれあいサロンの助成金を新設しました。その結果、研修や交流に助成金を使うことでサロン活動が充実したり、多様な団体と連携することで新たな繋がりができました。

◆新助成金概要

研修・イベント助成

サロンの運営などに関する自主研修や周知のためのイベントに対して助成しました。

連携・交流活動助成

地域の他団体と連携して行うイベントなどの活動に対して助成しました。(2019年度：9団体)

報告

助成団体数

39 団体

新たな連携団体数

77 団体

ふれあいサロンへの連携・交流活動助成

【マタニティヨガ体験+交流会・抱っことおんぶの練習会+交流会】

出産直後の一番大変で孤立しがちな時期に、誰かに相談できたり悩みを共有できる関係づくりを目指して、産前産後の講座+交流会を企画しました。

マタニティヨガ交流会では、妊婦さん同士での産後の報告や、ラインで悩みを支援団体へ相談できる機会をつくりました。おんぶの練習会ではおんぶの仕方を覚え、家事軽減に役立ちました。



報告

参加者 58名 連携団体 コミュニティ koen プレカフェ
産前から支援団体やママ同士がつながり、産後の孤立解消に役立ちました！

【ふれあいサロン交流会(鹿浜地域)私たちこんなことやってます！】

2018年から情報交換会を開催し、サロン同士が交流する中で「地域の人にサロンを知って欲しい」との声がありました。皆さんと企画会議を重ね、初の交流会を実施しました。参加した方からは「活動してる皆さんが頼もしい！楽しそう！」、サロンからは「地域のつながりができ、このつながりを大切にしていきたい」という言葉があり、素敵な会となりました。



報告

参加者 103名 連携団体 鹿浜地域のふれあいサロンなど10団体
サロン内外の結束を強められました！
地域の人にサロンを知ってもらえました！

ふれあいサロンへのイベント・研修助成

【皆さんが楽しみ！毎年恒例クリスマス会】

「サロンおおとり」は、毎年クリスマスが近づく頃、参加者皆さんで楽しめるイベントを開催しています。

当日は会場の飾りや、ビンゴゲームの景品に助成金を使い、カラオケなどで多くの参加者で大盛り上がり。

ビンゴゲームは皆さん毎年楽しみにしておられ、スタッフの皆さんは工夫を凝らして取り組んでいます。



報告

普段と違う雰囲気的交流を深めることができ、サロン活動が活性化しました！

【糖尿病の基礎知識を学んで予防の意識を高めよう！】

「ご近所サロンふれんど」は、交流を大切しながら、生活のためになるミニ講座や情報提供にも力を入れています。

今回は助成金を使用し、梅田病院から講師をお呼びして「糖尿病の基礎知識やその予防」について学び、血糖値測定をしてもらいました。受講された皆さんは、「食事に気を付けよう」などと意識が高まり意義ある時間となりました。



報告

専門家から話を聞き、病気の理解や予防方法を意識することができました！

目標を実現するための取り組み3

活躍する

地域福祉活動に参加できる機会をつくります

(1) ボランティアに関する各種講座の開催・コーディネート

①ここあだちカレッジ

地域活動をしたい住民の方向けに、福祉総合講座として「ここあだちカレッジ」を開催しました。修了者のグループ化やつなぎ支援にも注力しています。

項目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
受講者数【春コース】(人)	33	38	33	43※	39※
受講者数【秋コース】(人)	47	19	23		

※2018、2019年度は「昼・夜コース」として開催。

②コーディネート事業

ボランティアをやりたい、やってほしいなど、ボランティア活動に関する各種相談を受け、一人ひとりの要望に合わせて活動紹介（マッチング）、情報提供などを行いました。

項目		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
ボランティア登録	人数(人)	597	551	603	606	551
	団体数(団体)	67	77	74	74	70
ボランティア参加者(延べ人数)		1,079	591	741	730	632

※「ボランティア参加者」数は2016年度に集計方法を変更しました。

③ボランティアスクール事業

ボランティア活動への理解を深めるとともに、活動を推進するために講座を実施しました。入門講座として、ボランティア活動の入口や障がい者理解のための講座を開催しているほか、毎年テーマやターゲットを絞り、受講者がより実際の活動に繋がりやすいプログラムを企画しています。

項目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
講座・講演会(回)	10回	15回	14回	8回	6回

【プレシニアの活躍の機会を生むために】

社会的孤立やひきこもりが課題となっているなかで、足立区社協も区内 25 カ所の地域包括支援センターなどと協力しながら、高齢者の社会参加を後押ししてきました。取り組みを進める中で、高齢者いわゆるシニア世代へのアプローチ方法については理解を深めてきましたが、一方でシニア世代に入る前から地域に出ていると良いのでは？と考えるようになりました。

【足立区 NPO 活動支援センターとの連携】

プレシニアの地域参加について、足立区 NPO 活動支援センターも同様に感じており、社協と共催でプレシニアの活躍の場を考える機会を設けることにしました。

そのなかで、働き盛りのプレシニアが仕事で培ったスキルを地域に提供できるのではないかと考えました。そのうえで、区内で活動する NPO 団体同士がプレシニアの地域参加と周知について検討する会を設けることになりました。

センター登録団体意見交流会
共催：足立区社会福祉協議会

団体事務を助けてくれる
ビジネスパーソンを求め
団体の方!

多様なスキルを持った
紳士の力が欲しい
紳士もよわ!

地域のために自分のスキルを
活かすボランティアを
「プロボノ」
っていうんだって!

プレシニアが
活動の
参加したくなるPR術

12/18
10:00 (水)
～12:00

【無料】

第1部 プロボノ基礎セミナー
仕事の経験やスキルを活かしたボランティア活動「プロボノ」について、活用事例をまじえながら、施設世代やアクティブシニア募集のヒント等をご紹介します。

第2部 交流タイム
運営上の課題整理をしながら、団体の活動をステップアップするために、どのようなボランティアやプロボノを募集すると効果的か一緒に考えてみましょう。

定員 15人 (事前申込制)

会場 NPO活動支援センター
(梅田 7-13-1 梅田図書館 1F)

お問合せ・お申込み
▲足立区NPO活動支援センター
TEL 03-3840-2331 FAX 03-3840-2333
Eメール information@adachi-npo-center.com

ゲストスピーカー
SERVICE 認定NPO法人
GRANT サービスグラント
ビジネススキルや専門知識を活かして、社会的課題解決に取り組む非営利組織(NPO・地域活動団体等)の活動強化を支援する「プロボノ型助成」を行う。お金ではなく、スキルや専門性によって貢献できる企業員、プロフェッショナルスキルを持った社会人が「プロボノワーカー」としてスキル登録し活躍している。

【NPO 意見交流会（プレシニアが参加したくなる活動のPR術）】

交流会当日は、プロボノ（専門的なスキル・経験などをボランティアとして提供し、社会課題の解決に成果をもたらすこと）活動を推進している NPO 法人サービスグラントの小林事務局長を講師に迎え講義を行ったあと、各活動団体の課題整理、どんなプロボノが必要かを考えるグループワークを行いました。

今後は、グループワークなどで出た意見をもとに、プレシニアが地域の中で活躍できるような仕組みについて、足立区 NPO 活動支援センターなどと検討していきます。



企業による地域貢献活動

【ふれあいサロンと企業のマッチングを実施】

ふれあいサロンとのマッチングを目的に15の企業や自主団体にブース出展いただき、サロン研修会を開催しました。企業ならではの専門知識を活かした無料講座などを紹介しました。社協が関わることで、企業の地域貢献がより一層、深く地域に根ざした活動と結び付きました。企業としても、これまでに接する機会の少なかった地域の活発な住民と顔の見える関係になれた、貴重な機会となりました。



【マッチング後の企業貢献】

地域の居場所で体操指導



ふれあいサロン「男の健康クラブ～日・東・旭～」に医療法人社団民政会愛里病院と株式会社ベストリハの理学療法士や看護師が来て介護予防につながる体操を行いました。

地域の居場所で血管年齢測定会



ふれあいサロン「ひまわり☀️さん」では、サロン研修会で顔が繋がった「オリックス生命保険株式会社」の社員の方に来てもらい、普段のサロンとは違う内容で、健康講話と血管年齢測定をしていただきました。

企業・事業一覧(一部抜粋)

日本調剤薬局、朝日生命保険株式会社、ベストリハ株式会社、みずほ銀行、足立成和信用金庫、城北ヤクルトスポーツクラブルネサンス、愛里病院、パルシステムなど

一般企業

6社

その他(福祉事業所やNPOなど)

9社

(2) あったかサポートの運営

高齢者や障がい者の利用会員が在宅生活を続けられるよう、協力会員による家事援助を実施しました。また、協力会員の活動に必要な技術・知識の向上を目的に各種講座を行いました。

	項目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
会員数	協力会員数(人)	281	305	254	272	237
	利用会員数(人)	341	394	335	274	173
研修等	協力会員登録説明会(回)	12	6	5	12 (うち、個別7)	13
	協力会員フォローアップ研修(回)	4	5	3	2	2
実績	サポート提供時間(時間)	11,839	11,556	9,272	6,926	6,160

(3) ファミリー・サポート・センター事業の運営

足立区からの委託を受け、保育施設などへの送迎や提供会員宅での一時預かりなど、地域で子育ての援助を受けたい方(利用会員)と子育ての援助を行いたい方(提供会員)による会員制の住民相互援助活動を実施しました。

また、会員相互の情報交換を図るために交流会などを開催しました。

	項目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
会員数	提供会員数(人)	492	505	464	458	262
	利用会員数(人)	2,088	2,300	2,475	2,527	2,522
交流会等	提供会員登録説明会(回)	6	5	5	5	5
	提供会員登録時研修(回)	2	2	2	2	2
	利用会員登録説明会(回)	14	14	12	12	12
	交流会、研修会(回)	3	5	9	9	10
実績	活動時間(時間)	13,306	13,675	13,375	12,630	11,698
	活動件数(件)	10,586	10,932	10,754	10,089	8,981

目標を実現するための取り組み4

解決する

様々な住民団体で協力して取り組みます

(1) 社会福祉法人連絡会

足立区社会福祉法人連絡会は、多様化、複雑化する困難な福祉ニーズや制度の狭間の問題などに社会福祉法人が連携し、それぞれの持つ力を活かして取り組んでいくことを目的に2017年8月31日に設立しました。足立区に法人本部を置く社会福祉法人並びに足立区で活動する事業所で構成（会員数114名）され、地域の課題に応じた取り組み（地域公益活動）として、子ども広場「おれんちハウス」やクリスマス子ども食堂などを実施しています。

主体性を育む取り組み第一弾（法人連絡会）

会員の帰属意識の向上、主体的な取り組みを一層推進するために、セブン&アイホールディングスと連携してオリジナルnanacoカードを作成しました。オリジナルnanacoカードは利用額に応じて寄附される仕組みで、その財源はおれんちハウスの食材などに充てられます。会員施設で従事する職員がこのオリジナルnanacoカードを利用することで間接的に地域公益活動に参画できるものです。

また、2019年度は慢性的な人手不足解消に向け、新たな福祉人材の担い手と福祉活動を希望する方の掘り起しを図るため、東京都福祉人材センターと共催し、高齢、障がい、児童合同による、福祉のしごと相談・面接会を開催しました。面接会には、262名の方（うち面接者87名）にご参加いただき、アンケートでは「子育てで支援も充実していて長く働くことができそう」「無資格でも働けて資格取得のサポートが受けられるっていいですね」などの感想が多く寄せられました。



オリジナルnanacoカード調印式



福祉のしごと相談・面接会

(2) 災害ボランティア

ここ数年、各地で災害が発生しています。足立区においても2019年度の台風19号の際には荒川の氾濫に備えた動きがありました。いつ起こるかわからない災害に備えて、災害ボランティアの登録を進めています。台風19号においては幸いにも足立区には大きな被害はありませんでしたが、被害のあった鹿沼市にボランティアバスを運行し、登録災害ボランティアの皆さんと活動を行いました。いざという時に災害ボランティアセンターの運営をご支援いただけるような取り組みをこれからも行っていきます。

鹿沼市社会福祉協議会と災害時協定を締結しました

2020年1月24日に鹿沼市社会福祉協議会と足立区社会福祉協議会は「災害時における活動などの協力に関する協定」を締結しました。

本協定は自然災害などにおいて両社会福祉協議会（以下、社協）が相互に協力することにより、地域の早期の復興を目指すものです。

協定に先立つこと4年、足立区の友好都市である鹿沼市において発生した水害の際に足立区社協職員が応援として駆けつけ、交流が始まりました。

足立区社協で行っている災害ボランティアの研修などで鹿沼市社協の職員の方に講師を務めていただくなど、「災害」というキーワードで、平時の交流も行ってきました。

この間上記のような相互の協力関係を築いてきた経緯から、協定を締結することができました。協定の内容の重要性はもとより、協定に至るこれまで培ってきたお互いの信頼関係が本協定の一番の意義となります。

これからも災害時にいち早く復興に向けた取り組みができるように準備を進めていきます。



鹿沼市社会福祉協議会会長（右）
足立区社会福祉協議会常務理事（左）



2019年10月20日、鹿沼市富岡地区での
災害ボランティア活動の様子

地域の情報、発信・共有

住民自身が地域のニュースや
レポートを柔軟かつ楽しい形で伝え、
地域の情報を共有していくような仕組みをつくります。

後期アクションプランでの取り組み

- ささえあいリポーター（※1）（以下、リポーター）の活動の幅を増やし、さらに地域住民の発信の機会を増やします。
- リポーター同士が楽しく活動に取り組めるよう、仲間づくりの支援を行います。
- 社協の広報がより親しみやすくなるよう、リポーターによる区民目線を取り入れます。
- 幅広い世代で SNS（※2）の活用が広がるよう、パソコンやインターネットについて学べる機会を提供します。

具体的な展開のイメージ

2018 年度	2019 年度	2020 年度
<ul style="list-style-type: none"> • リポーターによるまち歩き取材 • 社協広報モニタリング 	<ul style="list-style-type: none"> • リポーターの組織化 • 社協広報モニタリング • 区民に向けた SNS 等の活用講座の開催 	<ul style="list-style-type: none"> • 社協広報モニタリング • 区民に向けた SNS 等の活用講座の開催
リポーター 10名 レポート・記事数 15本	リポーター 15名 レポート・記事数 25本	リポーター 20名 レポート・記事数 35本

※1 ささえあいリポーター…地域活動取材して記事にする区民ボランティアのことです。

※2 SNS…社会的なネットワークづくりを促進するインターネット上のサービスののことです。

2019 年度の取り組み

ささえあいリポーター募集講座の開催

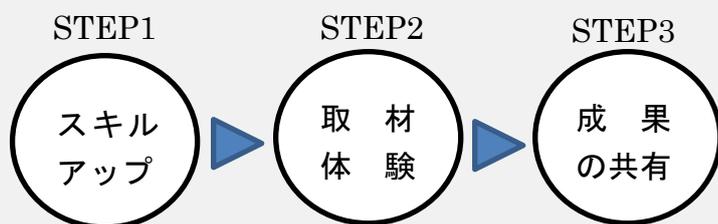
2019 年度は、リポーターの取材した記事を社協ブログの他、Facebook やふれあいサロン通信など、多様な広報媒体で情報発信を行いました。「ささえあいリポーター募集講座」では、写真撮影のスキルを学び、体験をするなど 3 日間の講座を開催しました。

項目	2018 年度	2019 年度
リポーター数	10 人	19 人
レポート記事数	13 本	20 本
交流会	4 回	4 回

次年度は地域の魅力を発信していくレポート活動、広報などの企画、自由で柔軟な活動の仕組みづくりに取り組んでいきます。

【ささえあいリポーターの募集】

効果



登録者が増え、多様な視点でプロジェクトを進める仲間ができました。



リポーターのメンバー拡充を図るため、3日間を通した講座を企画し実施しました。区の広報紙で募集し、12名の方が受講しました。

初日は区民の方の興味関心を踏まえ、多摩美術大学で講師を務める齋藤彰英氏から写真の撮り方を学ぶ機会を取り入れました。

2日目、3日目には学んだスキルを活用してお試し取材を行い、互いの成果を共有する場を設けました。



新規登録

9名

【情報発信ツールの多様化】

効果

より多くの区民に情報発信することができました。

地域活動レポートに加えて、複数名でイベント取材する集団レポート、社協広報紙やサロン通信の記事を作成するなど、多様な広報媒体で情報発信する機会を設けました。

社協
H P

Face
book

社協
広報紙

サロン
通信

集団
レポート

【リポーターの組織化】

効果

リポーターから新たな企画の提案が出ました。

リポーター同士の関係づくりを行うため、交流会を開催しました。交流会の中で、リポーター側から情報発信の場を広げるための企画提案がありました（ミニコミ誌の作成など）。



活動への参加促進

ボランティア活動等の
担い手同士がつながって、活動の紹介や
コーディネートをしていく仕組みをつくります。

後期アクションプランでの取り組み

- ・ここあだちカレッジやボランティアスクールなど地域デビュー講座を活用して、参加者が多様な地域の活動団体につながる取り組みを行います。活動者自身が講座の講師を担ったり、活動の紹介ができる講座を組むなど、関心が高まる企画を実施するため、地域の活動団体と一緒に取り組める企画会議を立ち上げます。
- ・講座受講者が具体的な活動を体験できるような機会や、合同相談会等により多様な活動団体と活動希望者がつながれる場づくりを行います。
- ・身近な地域での参加の仕組みができるよう、徐々に地域ごとでの企画を推進します。

具体的な展開のイメージ

2018年度	2019年度	2020年度
<ul style="list-style-type: none"> ・企画会議の立ち上げ ・地域デビュー講座の活用 (団体活動紹介等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域デビュー講座の活用 (活動体験講座等) ・団体活動の合同見本市や 合同相談会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ごとでの実施 (地域包括支援センター 5ブロック圏域内で 各1回程度)

2019年度

年度の取り組み

育児中の母親に向けた座談会の開催

2019年度は、昨年度立ち上げた企画会議のメンバーを拡充し、30～40歳代女性が地域に出るきっかけとなるような企画開催に向けて、会議回数も増やして活発な意見交換をしました。その結果、「当事者が自ら発言できる機会が大事である」「情報交換や相談できる場があると良い」などの意見から、育児中の母親を対象を絞った座談会を開催し、参加者同士で育児の悩みを共有しながら、地域に出ていくためにあったら良いなと思うことについて一緒に考えることができました。

次年度は、当事者が企画に参加して楽しむことで「地域で何かをしたい」と意識づけられ、それぞれに合った活動につながるような仕組みづくりに取り組みます。

項目	2018年度	2019年度
企画会議	4回	8回

【企画会議の開催】

効果

実際に地域活動をしている方々が新たにメンバーとなることで、多角的な視点で意見交換をし、企画を考えることができました。

3 団体
↓
5 団体



地域活動に参加する入口を考える



悩みを抱える人たちが外に出られる場が必要

当事者が
発言する機会が大事！

「ここに行ってみようかな」と
思ってもらえる取り組みで、
地域活動への入口を作ろう！

【座談会（育児トーーーク）の開催】（育児中の母親向け）

効果

企画会議メンバーの強みを活かした企画となり、母親同士で子育て中の悩みを共有する中から、地域活動に対する考えや今後の取り組みのヒントを得ることができました。

参加者
の声

話せてスッキリした！
共通の悩みがあった！

親子 7 組
参加

地域に出るための

『あったらいいな』

- ・子ども預け合いサークル
- ・情報交換や相談しあえる場の情報が、インターネットで見やすい環境



小地域、みんなで連携

区の地域ケアや
孤立防止の取り組みと連動して、
小地域における福祉課題解決のための仕組みをつくっていきます。

アクションプランでの取り組み

- 多様な団体同士が交流したり、地域に周知できる機会をつくるため、社協がつなぎ支援を行います。
- 交流の場で地域の取り組みを発表したり、課題を共に考えることができる場として、地域福祉活動フォーラムを企画・開催します。
- より身近な地域でのネットワークが徐々に広がるよう、地域ごとでの開催を推進します。

具体的な展開のイメージ

2018年度	2019年度	2020年度
<ul style="list-style-type: none"> • 地域福祉活動フォーラムの企画・開催 <p>(区内で1回程度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 地域福祉研究委員会をベースとしたフォーラムの開催 <p>(地域包括支援センター5ブロック圏域内で各1回程度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • より多様な団体と連携したフォーラムの開催 <p>(5ブロック圏域内で各1回程度)</p>

2019年度

の取り組み

多様な地域主体との新しい連携の芽をつくることができました！

2019年度は、地域福祉研究委員会を中心として、「町会・自治会」「災害」「多世代」「高齢・障がい」「障がい・災害」など5ブロックで異なるテーマのもと、地域福祉活動フォーラム（以下、フォーラム）に向けた打合せを重ね、地域の多様な主体同士が連携したフォーラムを4回開催し（中部ブロックは中止）、延べ1000人以上が参加しました。

その結果、今まで知らなかった地域の活動や人が交流することで、ネットワークが広がるきっかけとなり、次へつながる連携の芽をつくることができました。

次年度以降は、連携先の多様化や既存ネットワークとの連携をさらに発展させ、福祉のプラットフォームづくりに繋がるフォーラムを開催していきます。

2018 年度からの地区担当制業務について

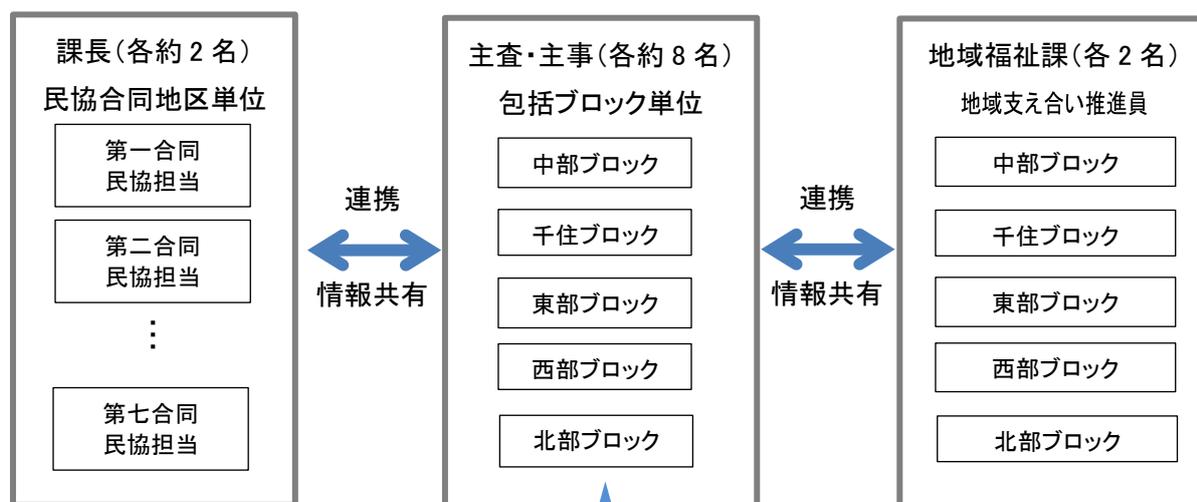
足立区社協が 2014 年度から導入した職員地区担当制業務は、地域福祉活動計画の基本方針をふまえて、地域参加の促進（社会的孤立の防止や活動の活性化）に取り組んでいます。

■担当圏域

2018 年度からは、民生・児童委員協議会との連携を図るため従来の 7 グループ（民生・児童委員協議会合同地区単位）を課長級職員が引き続き担当し、地域包括ケアシステムの構築を推進する実働チームとして、主査以下の職員を 5 チーム（地域包括支援センターブロック単位）に分け、相互に連携を図りながら地域福祉を推進する体制としました。

■業務内容

5 つのチームでは、若手・中堅職員の育成を念頭に各チームが業務別に 2 班に分かれて下表の業務を行いました。



班	職 層	主な業務	具体例
A 班	主に 新任職員	アセスメント 活動の周知	<ul style="list-style-type: none"> 活動取材（レポート、フェイスブック） 課題分析 かわら版の作成・周知
B 班	主に 中堅職員	福祉学習 懇談会支援	<ul style="list-style-type: none"> 福祉出前講座の提供 研究委員会への出席、活動支援 地域福祉活動フォーラムの企画・開催支援

中部ブロック

「～暮らしたい地域をつくる～

種まきフォーラム」

地域に根差す様々な団体（町会、NPO 団体、民生委員など）が
つながるために、お互いの活動を知る会を企画しました。

【メンバー】

浅古有文さん（足立区民生・児童
委員協議会）

隈元千代子さん（足立区民生・
児童委員協議会）

小笠原清さん（梅田通町会）

阿部直子さん（子育てかて eatco）



協力団体：梅島キッズサポート NPO 法人 LILA 子どもの学びを支援する会リエゾン・ア
ダチ NPO 法人アンドスプーン あおぞら作文教室 一般社団法人ミナー ADACHI
WOMEN & ALLIES

町会・自治会

14 団体

NPO

26 団体

社会福祉協議会
民生・児童委員
協議会

課題解決に向けて取
り組むネットワー
クの基礎となるチ
ーム作りを行いました

【プロセス】

STEP1

町会、民生委
員、NPO 団体へ
のヒアリング

STEP2

企画会議を開催
し課題整理

STEP3

フォーラム開催
内容の検討、課題
解決のため連携
できることをま
とめた冊子作成

STEP4

お互いの活動
を知る場「フォー
ラム」を開催、
マッチング

【プログラム】

第1部

- ・町会、民生委員、NPO の活動紹介
- ・町会、民生委員、NPO との連携事例についてのパネルディスカッション

第2部

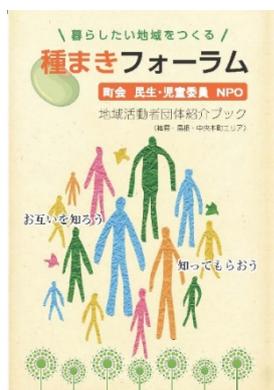
- ・町会、民生委員、NPO 団体による情報交換
- ・自由交流など



企画メンバーが作成したフォーラム開催チラシ

【プロセスでの成果】

企画会議を進めるなか、地域の課題について意見交換をして理解を深めました。「まずは、各団体がお互いを知ることから始まる」との共通認識のもと、地域にできること、望むことを各団体でシートにまとめ、より深く知るための冊子としました。また、企画メンバー同士のネットワークができ、町会イベントに NPO 団体が参加して地域の活性化を目指すなど、町会と NPO 団体が連携した取り組みができました。



町会、民生委員、NPO 団体の活動内容、課題、連携可能な事柄について掲載した冊子を作成しました



町会子ども会イベントに昔遊びコーナーを設置し NPO 団体とイベントを盛り上げました

【今後の方針】

フォーラムは中止となってしまったため、時期を見て、同様の内容でフォーラムを開催していきたいと思えます。また、冊子については参加団体を増やして内容を充実していきたいと思えます。

千住ブロック

「荒川氾濫時のどうなる？どうする？ を中学生と考える」

台風 19 号による水害をきっかけに、千寿桜堤中学校と連携して水害知識をつけ、地域の防災力を高めるフォーラムを実施しました。

【メンバー】

遠間道也さん（足立区民生・児童委員協議会）
茂出木直美さん（足立区民生・児童委員協議会）
柴由紀夫さん（千住東一丁目町会）
平塚純子さん（ゆいま～る足立）



協力団体：千寿桜堤中学校 足立区災害対策課

【開催日：2019年12月14日】

参加者

550 名

連携団体数

6 団体

このような取り組みは必要

81%

常東地域の一時避難所（小学校、中学校、高校）の受け入れ態勢や備蓄状況をまとめた防災まち歩きしおりを配布しました

【プロセス】

STEP1

テーマを地域課題の一つである防災に決定

STEP2

まち歩きに協力いただいた小中学校で検討

STEP3

災害対策課に講師依頼
中学校との打ち合わせ

STEP4

フォーラム開催

【プログラム】

- ・ 荒川氾濫の DVD 上映
- ・ 講演
足立区災害対策課災害対策係
課長 會田 康之 氏
「足立区の地域特性や情報収集の手段、身近な対策について」



地域福祉研究委員より趣旨説明

【フォーラムの成果】

常東地域の地域課題に防災（水害）が挙げられたため、防災まち歩きを実施し、協力いただいた中学校を対象としたフォーラムを実施しました。講演は、避難の手順や情報収集の手段、身近な対策など具体的な内容であったため、地域の一員として互助を担う中学生にとっても、今後の備えや考えるきっかけになりました。

参加された地域住民からは、「もっとたくさんの地域の方に聞いてほしい内容でした」という意見や「生徒を通じて保護者の方にも知ってほしい内容で、このような輪が広がっていくことを期待しています」との意見が聞かれ、中学校からは、今後とも協力し合いながら進めさせてくださいという話もいただきました。



講演の様子

【今後の方針】

これまでに繋がった学校や町会などとの連携や災害をテーマにさまざまな取り組みを行っている地域包括支援センターとも連携を取りながら、地域福祉活動フォーラムを企画していきます。

地域福祉活動フォーラムの内容については、生徒会の生徒と一緒にまち歩きなどを行い、生徒や地域住民に報告する形に変更していきます。



地域福祉研究委員会のメンバーとブロック担当職員

東部ブロック

「地域がはぐくむ地域のたから 来て見て知ろう、みんなの活動」

東部地域にある様々な地域活動がつながり、補い合える関係を目指して、多世代にわたる活動団体の発表や交流会を実施しました。

【メンバー】

木内信雄さん（足立区民生・
児童委員協議会）
毛利留一さん（六木団地
自治会）
阿部義勝さん（六木団地
自治会）
岡田スミ子さん（ふれあい
サロンむつみ会）
平出珠江さん（ふれあい
サロンむつみ会）



協力団体：あやせもりのひろば コミュニティホームY-ベース 佐野地区民生・児童委員協議会 六ツ木診療所 あいのわ福祉会 あだちの里 スマイル・メイツ 佐野地域学習センター ピーアーク・コミュニティガーデン オレンジカフェ連絡会

【開催日：2019年11月9日】

参加者

140名

連携団体数

14団体

新たな活動を
知った人

83%

活動発表をとおして、
ホームページ作成を
希望している団体が、
協力者と出会うこと
ができました

【プロセス】

STEP1

活動見学
関係機関
団体への訪問
ヒアリング

STEP2

テーマを多世代
の交流に決定

STEP3

発表団体・出展
団体説明会
当日の運営につ
いて確認

STEP4

フォーラム開催

【プログラム】

第1部 活動発表

- ・あやせもりのひろば（地域食堂）
- ・佐野地区民生・児童委員協議会
- ・コミュニティホーム Y-ベース

第2部 交流会

六ツ木診療所、あいのわ福祉会、あだちの里、ふれあいサロン（3団体）、スマイル・メイツ、佐野地域学習センター、ピーアーク・コミュニティガーデン、オレンジカフェ連絡会（発表団体をあわせて計14団体）



発表団体・出展団体説明会は、20人以上の参加。顔合わせと当日の進行を打合せました

【フォーラムの成果】

地域福祉研究委員会で行った活動見学や、社協職員の取材・ヒアリング活動の結果、東部地域では子育て世代からシニア層まで様々な活動が展開されている一方で、①地域的な偏りがあること、②活動が十分に住民に知られているとはいえないことが課題としてあがりました。

そこで、東部ブロックで行われている活動が互いに知り合い、補い合ったり連携したりといった効果が生まれることを目指して、「多世代」をキーワードに、活動団体の発表と交流会を実施しました。

活動発表を行った団体からは、「活動発表で団体のホームページ作成をしたいと話したところ、協力者と出会い、ホームページの作成ができた」、交流会に出展したサロンからは「他の地区で活動しているサロンと交流の約束ができた」などの報告が寄せられました。団体同士のつながりづくりを一步進めることができました。



東部地域の活動をまとめてマップ作成。掲示しました



交流会では出展ブースの皆さんにインタビューを行いました

【今後の方針】

このフォーラムで結んだ縁を基盤に団体間の交流・連携をサポートしていきます。アセスメント班では、特に東部地域の子ども・子育て活動団体やニーズ把握を行いながら、子ども・子育て領域のネットワークづくりに取り組みます。フォーラム企画班では、高齢者の相談窓口である地域包括支援センター等の関係機関と連携し、地域団体の皆さんとフォーラムを企画していきます。

西部ブロック

「みのりの秋まつり」

～地域住民に知ってもらうことから始める

孤立防止、障がい者理解～

新しくできた高齢者サロンと障がい者施設の活動を地域住民へ紹介するイベントを開催しました。

【メンバー】

市村智さん（足立区民生・児童委員協議会）
内木正夫さん（足立区民生・児童委員協議会）
齋藤茂さん（椿町会）
江川せつ子さん（椿町会）
川上智保さん（居宅介護支援事業所ひだまり）



協力団体：江北ひまわり園 江北ベジサロン 江北生協診療所 地域包括支援センター江北

【開催日：2019年11月16日】

参加者

300名

連携団体数

7団体

70歳以上の方

約60%

サロン、施設の取り組みや活動をPRすることができました

【プロセス】

STEP1

江北地域の高齢化に着目
地域の方と一緒にサロンの必要性について協議

STEP2

江北ベジサロン活動スタート
江北ひまわり園のオープン

STEP3

研究委員会、実行委員会にて、月1回集まってフォーラムの内容を検討

STEP4

フォーラムの開催

【プログラム】

《江北ベジサロン紹介》

- ・ 畑でサロン体験
- ・ 畑で取れた野菜を使った豚汁の販売
- ・ パネル展示

《江北ひまわり園紹介》

- ・ 施設見学&活動紹介
- ・ 施設で製造したパンの販売
- ・ パネル展示

《その他》

- ・ 健康相談（江北生協診療所協力員）
- ・ 演芸披露（ボランティア）
- ・ 健康体操（江北ベジサロンスタッフ）

【フォーラムの成果】

足立区の中でも特に高齢化率の高い江北地域において、高齢者が気軽に参加できる交流の場（サロン）が求められていることが昨年度行った地域アセスメントから明らかとなりました。このことについて地域包括支援センター江北主催の会議にて地域住民同士が協議した結果、誕生したのが「江北ベジサロン」です。2019年4月に開所した「江北ひまわり園」と、所有者の好意で貸していただけることとなった施設横の畑を使った、「畑づくりを通して住民同士が交流できる新たな居場所」として、2019年5月から月2回の活動をスタートしています。

フォーラム開催にあたり、まずは新しくできた江北ベジサロンと江北ひまわり園を地域の方々に知ってもらい、高齢者の孤立防止や障がい者理解につなげたいとの関係者の思いから「みのりの秋まつり」を計画。サロンで育てた野菜を使った豚汁の販売や、畑体験、施設見学や活動紹介などを通し、地域住民へ活動をPRしました。

予想をはるかに超える参加者数で、戸惑う場面もありましたが、「どういう施設なのか分かってよかった」「初めてサロンの活動を知った。地域に必要なことだと思う」「土いじりが好きなので参加したい」などの感想を多数もらうことで、このイベントを開催した意義は大きく、まずは地域の方に知ってもらいたいという願いは多くの方に届いたのではないかと考えています。

【今後の方針】

今後も江北地域の高齢者の孤立防止や障がい者理解に向けて、サロン、施設、地域包括支援センター、社協などが協力し合い、さらなる連携の輪を広げていきたいと考えています。

また、2020年度は、江北ひまわり園が開催する園祭の中で、江北ベジサロンの紹介や交流の場を持つ方向で話が進められています。



サロンスタッフが畑を案内し、サロンで作る作物について解説



江北ひまわり園で作るパンは「おいしい」と大評判



サロンで育てた野菜を使った豚汁は買う人が途切れないほど大人気

北部ブロック

「はなはた ふれあいフォーラム」 ～ささえあい 助けあう 地域防災を考える～

足立特別支援学校と花畑地域の住民が交流し、地域防災について考えました。

【メンバー】

山本祥一さん（足立区民生・児童委員協議会）
小金井堅治さん（足立区民生・児童委員協議会）
佐藤保夫さん（桑袋団地自治会）
雨宮恵子さん（花畑あすか苑）



協力団体：桑袋団地自治会 鷺宿町会 交友会 鷺宿平成クラブ 花畑地区民生・児童委員 足立特別支援学校 南花畑特別支援学校 城北特別支援学校 地域包括支援センターはなはた

【開催日：2020年2月18日】

参加者
(定員 50 名)

49 名

地域づくりに
役立った人

81%

参加者の声

- ・ 足立特別支援学校の地域活動や地域防災の取組みを知ることができました
- ・ 近隣地域の交流が非常に大切だと実感しました

【プロセス】

STEP1

足立区北部にある都立特別支援学校3校（南花畑、城北、足立）をアセスメント

STEP2

目的は花畑地区の地域住民などに足立特別支援学校を知ってもらう

STEP3

テーマは地域防災を考える
足立特別支援学校と当日の運営について協議

STEP4

フォーラム開催

【プログラム】

第1部：講演会「足立特別支援学校における防災教育」

第2部（前半）

- ①交流会 生徒によるダンス披露
- ②生徒による Café 実演と販売

第2部（後半）

- ①意見交換会「災害時、学校に期待すること」
- ②質疑応答

【フォーラムの概要と成果】

2018年度北部ブロックA班で行った地域アセスメントをきっかけに、今回のフォーラムは花畑地区の地域住民に都立足立特別支援学校を知ってもらい、交流する場をつくることに決まりました。

足立特別支援学校の全面協力もあり、フォーラム当日を授業の一部として、一部生徒にもダンス発表や Café 実演販売、物品販売など役割を持って参加してもらう形で企画が進んでいきました。

当日は晴天にも恵まれ、49名が参加しました。

第1部講演会では、学校側の防災の取り組みや地域活動などのお話がありました。改めて花畑地区を知るきっかけになりました。

第2部意見交換会では、地域防災をテーマにグループワークを行い、各グループで活発な意見交換が行われました。フォーラムの途中に行われた生徒によるダンス発表や Café 実演販売、パンなどの販売は参加者にとっても好評でした。

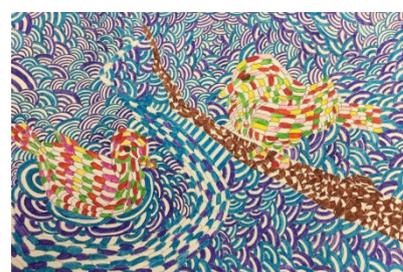
参加者から、「学校を第一次避難所として活用したい」「学校の設備や備蓄品の確保が課題になる」など具体的な意見が多数出ました。

【今後の方針】

今回のフォーラムで地域住民と足立特別支援学校の接点生まれ、「1 地域を知る」「2 交流する」ことができました。

2020年度は、今回の参加者から出た意見を参考に足立特別支援学校と花畑地区地域住民の継続的な交流や連携をサポートしていきます。

足立特別支援学校をモデルケースとして、足立区北部にある他の都立特別支援学校と地域住民や町会・自治会、民生・児童委員、地域包括支援センターや関係機関などと連携しネットワークづくりに取り組みます。



足立特別支援学校生徒作品
3通りのチラシを作成し配布しました



生徒による Café 実演と販売
淹れたてのコーヒーを提供してくれました

3 足立区地域福祉活動計画について

(1) 2019 年度の取り組み

◇第3次足立区地域福祉活動計画策定に向けて

第2次足立区地域福祉活動計画（以下、計画）の計画期間が終了に近づいてきたため、次期計画の策定に向けた準備作業を行いました。

・職員検討委員会（職員PT）での検討

地域福祉部長、地域福祉課長、総務課長、企画経営課長、地区担当制各ブロック代表5名による委員会を設け、策定作業の準備を行いました。アドバイザーとして、日本大学文理学部社会福祉学科諏訪徹教授にご協力いただきました。

回	開催日	主な議題
第1回	2019年6月19日	第3次計画の全体像および基礎調査について
第2回	2019年7月25日	アンケート調査の実施について
第3回	2019年9月4日	地域共生社会について
第4回	2019年11月5日	進め！あだちプロジェクトの今後について
第5回	2020年1月22日	アンケート調査の結果について

※新型コロナウイルス流行のため、第6回委員会（2020年3月予定）は中止でした。

・第2次計画の評価

基礎調査の一環として、計画の評価機関である地域福祉研究委員会により、第2次計画の主要な取り組み「進め！あだちプロジェクト」の評価を行いました。

評価方法

- ① 実績評価（取り組みの実績値の確認）
- ② 参加型評価（会議等のメンバーまたはイベント参加者）
- ③ 評価機関による総括的評価（地域福祉研究委員会）

プロジェクト名	実績評価 (主要項目のみ)	計画初年度	2019年度	参加型評価 (3点満点)	委員評価 (5点満点)
1 地域の情報、発信・共有	・リポーター数 ・レポート数 ・活動事例集の創刊	0人 0本 年1回創刊	19人 20本 年1回創刊	2.0	4.3
2 活動への参加促進	・企画会議 ・イベント等の開催	6回 5回	17回 4回	1.8	4.3
3 小地域、みんなで連携	・委員会等 ・フォーラムの開催 ・フォーラム参加者	未計測 0回 0人	152回 4回 1039人	2.7	4.5

(2) 2020年度の方針

◇第3次足立区地域福祉活動計画策定に向けて

2020年度は、第3次計画（計画期間は6年間）の準備および策定にかかる検討を進めていきます。

検討にあたっては、引き続き社協職員検討委員会と第4期地域福祉研究委員会において、前期地域福祉研究委員会での第2次計画に関する評価結果と、昨年度実施した区民や団体向けのアンケート調査結果をもとに計画案を検討します。

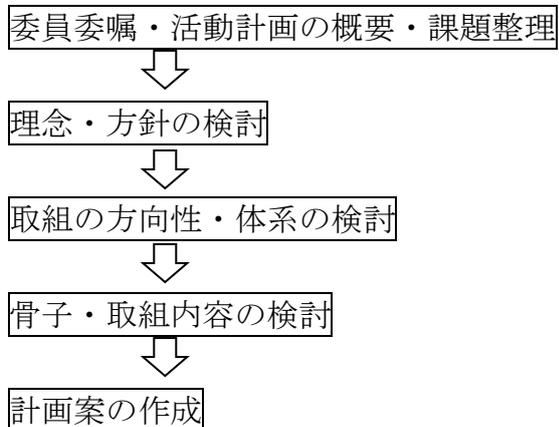
・第4期地域福祉研究委員会（任期は3年間）

第4期委員会では、上記の計画策定と計画のモニタリング・評価をしていきます。2020年度から新たな体制になり、以下の計23名で構成されています。

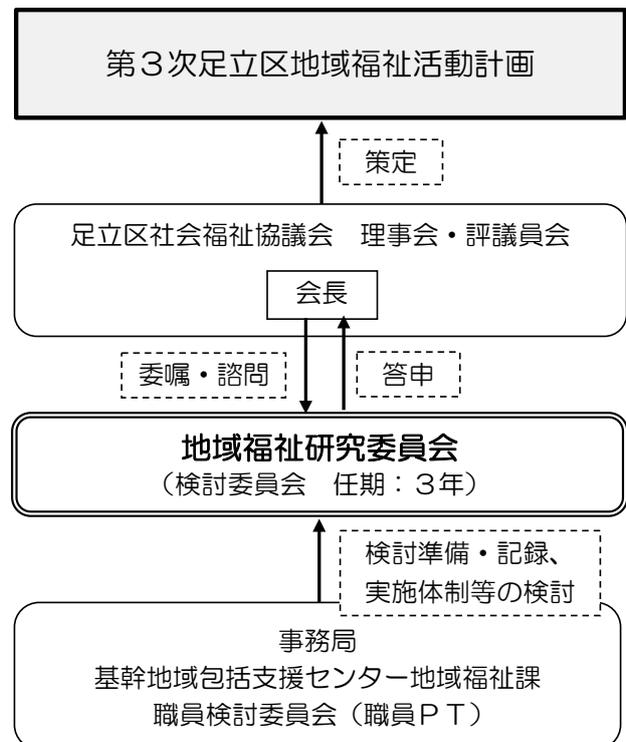
【委員構成】

- ② 学識経験者
- ② 民生・児童委員（各地区より副会長1名ずつ 計7名）
- ③ 町会・自治会（5団体）
- ④ 地域福祉活動団体（ふれあいサロン）（5団体）
- ⑤ 社会福祉法人（5団体）

【検討の流れ】



【策定体制】



4 ささえあい活動事例集について

足立区社協では、足立区にある様々な地域活動を 2015 年から取材し、記事（地域活動レポート）にして、1 年を通じてまとめています。これは身近な地域にどんな地域活動があるかを地域の皆さんに知ってもらおうとともに、魅力ある地域活動を後押しするものです。以下、地域活動レポートの取材の一部を抜粋します。

西新井栄町地域



「あ★だちっこキッチン」は月 1 回、西新井栄町で開催されている「多世代地域食堂」です。みんなで食べ物を持ち寄ったり、早めに来て調理を手伝ったり、たどてみると、「町の寄り合い」といった印象。写真は、参加者が自己紹介している様子です。

中川地域



歴史さんぽの会は、足立区中川地域に住む 65 歳以上の男性を中心に地区の歴史、史跡の探訪を通じて、高齢者の孤立防止をはかろうとする会です。この日は中川地域センターで行われている定例会にお邪魔しました！

花畑地域



カーレットは、3人対3人で競技する卓上カーリングです。2019年6月2日、花畑地域学習センターで足立区初のカーレット大会が開催され、試合は白熱！参加者同士の交流も生まれ大変盛り上がった大会となりました。

2015年～2018年度
までの事例集



2019年度は、53件の地域活動レポートを、ささえあい活動事例集としてまとめました。区民リポーターによる取材も増え、バラエティに富んだ内容となっています。どうぞ、区民目線でのレポートについてもお楽しみください。

詳細は別冊の「ささえあい活動事例集」をご覧ください。

2019年4月1日～2020年3月31日の間に、足立社協「ささえあいブログ」に掲載したものを。



足立 ささえあいブログ

🔍 検索

第2次足立区地域福祉活動計画

2019年度 事業報告書

発行年月 2020年5月

発行 社会福祉法人足立区社会福祉協議会

編集 社会福祉法人足立区社会福祉協議会
基幹地域包括支援センター 地域福祉課
〒121-0816 東京都足立区梅島二丁目1番20号
(NTT梅島ビル1階：足立消防署横)
電話：03-6807-2460 Fax：03-5681-3374

誰もが安心して暮らせる地域づくりを



**ささえあい活動のご相談は、
社会福祉協議会へ**

基幹地域包括支援センター 地域福祉課
(梅島2-1-20 NTT梅島ビル1階)

電話 03-6807-2460 Fax 03-5681-3374